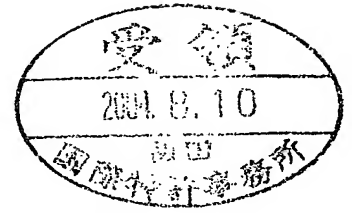


拒絶理由通知書



特許出願の番号 特願2000-386082

起案日 平成16年 8月 5日

特許庁審査官 青木 千歌子

9351 4X00

特許出願人代理人 飯田 敏三 様

適用条文 第29条第2項

JPO

Action

<<<< 最 後 >>>>

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記

◇請求項1及び2について

引用例1：特開平9-270271号公報

引用例2：国際公開第99/49531号パンフレット

引用例3：特開2000-182600号公報

引用例4：特開平11-273736号公報

引用例5：特開2000-243384号公報

引用例1には、非水系二次電池の製造に際し、正極物質、負極物質及びセパレータの積層品に対し電解液と相溶性のあるモノマー溶液を含浸させた後ゲル化させ、電解質を溶かしたエチレンカーボネート溶液中に浸して電解質を含んだゲルとすることが記載され、予め電解質を溶解した非水系溶媒にモノマーと重合開始剤を溶解して反応させてもよい旨も記載されている（【0005】）。

引用例2には、デカンジオールジアクリレートとLiPF₆を含む電解液と光重合開始剤との混合物を薄膜状に成形し、UV光線を照射してスピノーダル分解させ、多層高分子ゲル電解質とすることについて記載され、リチウム二次電池の電解質に用いる例も記載されている（第8頁～第9頁）。

引用例3には、LiBF₄を含む電解液に化1で表される2官能アクリレートモノマーを混合した電解質溶液を正極合剤上に塗布した後、電子線照射によりモノマーを重合させてポリマーを形成させ、リチウム二次電池のゲル状の電解質とすることについて記載され（【0035】～【0050】）、電解質は1 μ m以下の微細孔を有し、ゲル状電解質と微細孔内に存在する遊離の液状電解液がミクロに混在する状態となっている旨も記載されている（【0038】）。

引用例4及び5には、正極、電解質及び負極を一体化した非水電解液未含浸の発電要素を作製し、非水電解液を含浸してゲル化するリチウム二次電池の製造方法について記載されている。

引用例1に記載された発明において、正極物質、負極物質およびセパレータの積層品を、引用例4及び5にある周知の技術に倣って、一体化したものとするとは、当業者が容易に成し得たことと認められ、さらに、引用例1に記載された発明において、モノマー溶液を引用例2及び3により周知の重合し架橋するものとするとも当業者が容易に成し得たことと認める。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

最後の拒絶理由通知とする理由

1. 最後の拒絶理由通知に対する応答時の補正によって通知することが必要になった拒絶の理由のみを通知する拒絶理由通知である。